

## 京都府内で初開催

～ICTでよみがえれ地方の元気を 京丹後市から全国へ発信～

### 「全国地域情報化推進セミナー2009in 京丹後」

平成21年6月18日

京丹後市役所

ICT（情報通信技術）を利活用した地域活性化について、全国の自治体や企業が集い先進的な取組事例の紹介や情報交換などを行う「全国地域情報化セミナー」を7月2日・3日の両日、京都府内で初めて京丹後市で開催します。

ICTで地方の元気をいかによみがえらせるかをテーマに、情報通信技術の利活用により“地方の元気”をどのようによみがえらせていくのかを京丹後市から全国に発信します。

基調講演として、様々なメディア活用した地域活性化について、**慶応義塾大学大学院教授中村伊知哉氏の講演**や、特別講演として、高齢者のICTの利活用について、各地の高齢者を対象とした講習会を行っている**東京大学先端工学技術研究センター交流研究員の近藤則子氏の講演**をはじめ、**総務省の情報通信部門を統括している政策統括官が来訪**されます。

#### <開催概要>

- |          |   |
|----------|---|
| (1) 日 時  | 7月2日（木）14:00～・3日（金）12:10～   |
| (2) 会 場  | 佳松苑（網野町木津）  |
| (3) 主 催  | 全国地域情報化推進セミナー2009in 京丹後実行委員会<br>（京丹後市、京都府、総務省近畿総合通信局、<br>財団法人全国地域情報化推進協会） |
| (4) 共 催  | 近畿情報通信協議会   |
| (5) 後 援  | 総務省、ITコンソーシアム京都   |
| (6) 参加費  | 無料  |
| (7) 参加対象 | 全国の自治体及び企業の担当者、一般住民の方   |
| (8) 定 員  | 200名  |

## <開催趣旨>

ユビキタス社会の実現に向けた取り組みが全国で進められている中で、ICTを積極的に利活用した地域活性化を先進的に実践している地方公共団体の取組事例等を紹介し、参加した地方公共団体・企業など様々な立場から地域が抱える課題を解決するためのヒントを得る機会を提供するとともに、参加者相互が情報交換を行うことで地域情報化への意識向上を図ることを目的に、**京都府、総務省近畿総合通信局、財団法人全国地域情報化推進協会と本市で構成する実行委員会により、「全国地域情報化推進セミナー2009 in京丹後～京丹後発ICTでよみがえれ地方の元気～」を開催します。**

本市は、都市部との情報格差解消のため、市内全域に光ケーブル網による情報インフラを整備し、今年12月にはケーブルテレビや超高速インターネットのサービスを始める予定です。また、地域産業の振興を目的に地域ビジネスSNS（T-WAVE）の運用、有害鳥獣対策や地域資源流通への「ふるさくケータイ事業」の展開等、地域課題へのICTの利活用を積極的に進めています。

今回、本市のように、地方に位置し、面積が広く、高齢化が進む同様の多くの自治体では情報通信技術の利活用が都市部以上にまちづくりに重要な役割を果たしていくことから、本セミナーを開催し、サブタイトルのとおり“地方の元気”をどのようによみがえらせていくのかを京丹後市から発信いたします。

※ ICTとは... Information and Communication Technology の略で、情報通信技術を表す言葉

## <参加申込み>

- (1) 募集締切 平成21年6月26日（金）（一週間延長）  
※情報交流会は受付終了
- (2) 申込方法 FAX、電子メール及びホームページ
- (3) 申込先 全国地域情報化推進セミナー2009 in 京丹後実行委員会事務局（財団法人全国地域情報化推進協会内）  
電話：03-5251-0311 FAX：03-5251-0317  
e-mail：[seminar@applic.or.jp](mailto:seminar@applic.or.jp)  
URL：<http://www.applic.or.jp>

## <セミナー沿革>

- 昭和58年から、地域情報化普及のため、地方公共団体担当者と開発企業担当者の情報交流の場の提供を目的として、毎年1回テレトピア指定地域で持ち回り開催し平成3年度からは「地域情報化全国セミナー」として開催し、平成17年度には、総務省が実施する地域情報化施策、特に次世代地域情報プラットフォームによる自治体情報システムの抜本改革を推進するために、「地域情報化総合推進セミナー」も併せ開催していた。平成19年度から、両セミナーを統合し、「全国地域情報化推進セミナー」として年2回開催。
- 京都府では初めての開催。
- 昨年度は、熊本市（平成20年7月17日～18日）、浜松市（平成20年10月16日～17日）で開催。今年度は、京丹後市と長崎市（平成20年9月25日～26日）で開催。

## <主な講師の経歴>

### ●慶応義塾大学大学院 メディアデザイン研究科教授 中村伊知哉 氏

1961年生まれ。1984年京都大学経済学部卒。2006年大阪大学博士課程単位取得退学。博士（政策・メディア）。

1984年、ロックバンド「少年ナイフ」のディレクターを経て郵政省入省。電気通信局、放送行政局、登別郵便局長、通信政策局、パリ駐在、官房総務課を経て1998年退官。

1998年－2002年 MIT メディアラボ客員教授。

2002年－2006年、スタンフォード日本センター研究所長。

2006年9月より慶應義塾大学教授。

総務省参与、情報通信審議会専門委員、文化審議会著作権分科会専門委員。

一般社団法人「融合研究所」代表理事、デジタルサイネージコンソーシアム理事長、NPO「CANVAS」副理事長、(株)CSKホールディングス顧問を兼務。

コンテンツ学会副会長、「安心ネットづくり」促進協議会 世話人。

### ●東京大学先端化学技術研究センター交流研究員 近藤則子 氏

1955年 埼玉県生まれ。米国マサチューセッツ州マウントアイダカレッジ卒。

1992年、老親を介護する友人と、ICTで笑顔の介護を！を目指して「老テク研究会」を創設。

高齢者のためのパソコン学習支援と情報コミュニティを運営する米国の非営利団体「シニアネット」や韓国の「元老坊」を招聘し、国内各地の高齢者や障害者のためのパソコンボランティア活動を支援している。2000年からは企業や行政との協働で、シニアのための無料携帯電話活用セミナーや、地デジ利用支援勉強会を行っている。

総務省地域情報化アドバイザー



## ご挨拶

近年のICT（情報通信技術）の進歩と社会への浸透は、今までの予想を大きく上回る速度で日々の社会経済活動や日常生活を変えつつあります。ブログやSNSなどにより、住民が簡単に世界へ向けて情報を発信したり、携帯電話で電子マネーの利用やインターネットアクセスをするなど、ユビキタスネット社会が現実のものとなりつつあります。

わが国においては、2001年1月に「e-Japan戦略」を策定したことを皮切りに、いつでも、どこでも、誰でもICTの恩恵を実感でき、真にあらゆる分野における創造的かつ活力のある発展が可能となる社会の早期実現に向けて取り組んでいます。

総務省においては、2010年に世界最先端のICT国家として先導することを目標とする「u-Japan政策」を推進しており、また、今年3月には「デジタル日本創生プロジェクト（ICT鳩山プラン）-骨子-」を取りまとめるなど、国民がICTによる真の豊かさや安心・安全を実感できる環境整備を目指した取り組みが行われています。

今回のセミナー開催地であります京丹後市は、近畿の最北部の丹後半島に位置し、「ひとみずみどり 歴史と文化が織りなす交流のまち」を将来像に6町が合併して2004年（平成16年）4月に誕生しました。日本海に面する海岸線は、山陰海岸国立公園、丹後天橋立大江山国定公園に全域が指定され、白砂青松とリアス式の岩礁といった風光明媚な景観が続いています。昨年12月には、本市域を含む山陰海岸ジオパークが、日本ジオパークの認定を受け、現在は「世界ジオパーク」への加盟に向けて様々な活動を進めています。

また、古代から大陸や朝鮮半島と交流が活発で、「古代丹後王国」の数多くの歴史遺産や丹後七姫伝説等が残され、伝統ある「丹後ちりめん」は現在も日本一の絹織物産地として知られています。今日では、新たに機械金属工業や観光産業がまちの発展を担うとともに、日本一おいしいとも評価される丹後米、ブランド化されつつある間人（たいざ）ガニや京野菜などの農水産物など恵まれた地域資源があります。さらに、百歳以上の高齢者が全国平均の3倍を超える健康大長寿のまちでもあります。これらの魅力を活かしながら、市民とのパートナーシップによる協働と共創のまちづくり、お互いに生かしあい、支えあい、助けあって生きることにあふれる、笑顔と喜びの「まほろば」「新・丹後王国」の創造を目指し取り組んでいるところです。

一方、大都市圏から遠方で市域も広く、ブロードバンドの民間整備が進まない条件不利地域にあることから、都市部との情報格差解消のため、平成19年度から市内全域を対象に光ケーブル網による情報通信基盤の整備に着手しています。今年12月には、地上デジタル放送や地域密着の自主番組が視聴できるケーブルテレビ、超高速インターネットのサービスが開始できる見込みです。併せて、地域産業の振興を目的とする地域ビジネスSNSの構築、有害鳥獣対策や地域資源流通への「ふるさとケータイ事業」の展開等、地域課題へのICTの利活用は都市部以上に重要な役割を果たすものとして積極的な推進を行っています。

そこで今回、全国の自治体及び企業の担当者、そして一般住民の方を対象としまして、地域情報化に関する国の施策、地方における電子自治体や地域情報化に関する先進事例などの情報を提供し、より一層の地域活性化と地域情報化の推進に寄与することを目的として、全国セミナーを京丹後において開催させていただくこととなりました。

本セミナーが、少子高齢化社会や今般の厳しい経済状況など、地方が抱える共通の課題をICTの利活用によって解決し、地方の元気が再生するよう、参加者の皆様方の情報交流の場となり、課題の解決の一助になるとともに、今後の相互連携を深めていただく機会となれば幸甚です。

平成21年7月

全国地域情報化推進セミナー2009 in 京丹後実行委員会

※ジオパークとは、地質学的に重要な地層や岩石の露頭（地層や岩石が直接見られる場所）および重要な地形など地質遺産を含む一種の自然公園で、「山陰海岸ジオパーク」は山陰海岸国立公園を中心とする京丹後市の経ヶ岬（きょうがみさき）から鳥取市の湖山池（こやまいけ）西端を含めた白兔（はくと）海岸までが対象で、日本列島がアジア大陸の一部であった時代の岩石から、今日に至るまでの経過が確認できる貴重な海岸です。

# 全国地域情報化推進セミナー 2009 in 京丹後 プログラム

～ 京丹後発 ICTでよみがえれ地方の元気！ ～

≪ 1日目：7月2日（木） ≫		
13:30	受付開始	
14:00～14:20	開 会	開会挨拶 京丹後市長 中山 泰 氏 主催挨拶 財団法人全国地域情報化推進協会理事長 清水 英雄 氏
14:20～15:20 【60分】	基調講演	「メディア融合と地域情報化」 講師 慶應義塾大学大学院メディアデザイン研究科教授 中村 伊知哉 氏
休 憩 【20分】		
15:40～16:05 【25分】	特別講演 1	「電子自治体の新たな展開について」 講師 総務省自治行政局地域情報政策室 室長 井上 知義 氏
16:05～16:30 【25分】	特別講演 2	「地域情報化施策（地域情報プラットフォーム関係等）」 講師 総務省情報流通行政局地方情報化推進室 室長 青山 忠幸 氏
休 憩 【10分】		
16:40～17:20 【40分】	事例紹介	「ケータイを利活用した地域情報化の事例紹介」 ①ふるさとケータイ事業による地域活性化の推進について 京丹後市企画総務部情報政策課長 吉岡 敬恭 氏 丹後通信株式会社 代表取締役社長 藤澤 政隆 氏 ②世界遺産 高野山 ケータイ観光オフィシャルサイト構築事例のご紹介 株式会社エヌ・ティ・ティ・コム関西支社 リュウシヨウ技術部長 三木 修 氏
17:20～17:35 【15分】	おしらせ	京丹後市のご紹介
17:35～17:40	初日閉会	閉会挨拶 近畿総合通信局長 稲田 修一 氏
18:10～19:30	情報交流会	

≪ 2日目：7月3日（金） ≫		
9:10	受付開始	
9:30～9:35	来賓挨拶	来賓挨拶 総務省政策統括官 戸塚 誠 氏
9:35～10:15 【40分】	特別講演3	「老後を一変する情報革命 ～おせっかいな人がICTの光と影を伝えよう～」 講師 東京大学先端科学技術研究センター交流研究員 近藤 則子 氏
休 憩 【10分】		
10:25～12:05 【100分】	パネルディスカッション	テーマ：「ICTを活用した地域メディアによるコミュニティの活性化」 コーディネータ： NPO法人はりまスマートスクールプロジェクト 理事長 和崎 宏 氏 パネリスト： アクション・リサーチ代表 代表 高橋 明子 氏 パネリスト： 株式会社中海テレビ放送 専務取締役 高橋 孝之 氏 パネリスト： NPO法人京丹後コミュニティ放送 理事長 福永 孝宣 氏
12:05～12:10	閉会	閉会挨拶 京丹後市副市長 米田 保 氏（セミナー実行委員長）

【お問い合わせ先】 全国地域情報化推進セミナー 2009 in 京丹後 実行委員会事務局

財団法人全国地域情報化推進協会 井上、沖 tel：03-5251-0311 fax：03-5251-0317

e-mail：[seminar0702@applic.or.jp](mailto:seminar0702@applic.or.jp)